

事業の背景・目的

みなかみBRは、群馬県の最北端に位置しており利根川最上流域に位置しており首都圏約3000万人の市民の水源地域としてだけでなく絶滅危惧種を含め生物多様性保全上重要な地域である。特に、優先課題となっているみなかみBR全域のイヌワシ分布調査、ニホンジカの低密度管理の推進と市民協働による里山調査、既存の調査から分類群ごとの保全上重要な地域を把握する重点調査を通して現状把握を行う。事業後の成果としてみなかみBR全域における多様な主体からなるモニタリング調査データを統合し、みなかみBR生物多様性保全実施計画に反映し、生物多様性保全策に繋げるとともに生物多様性保全ネットワークのモデルを形成することを目指す。

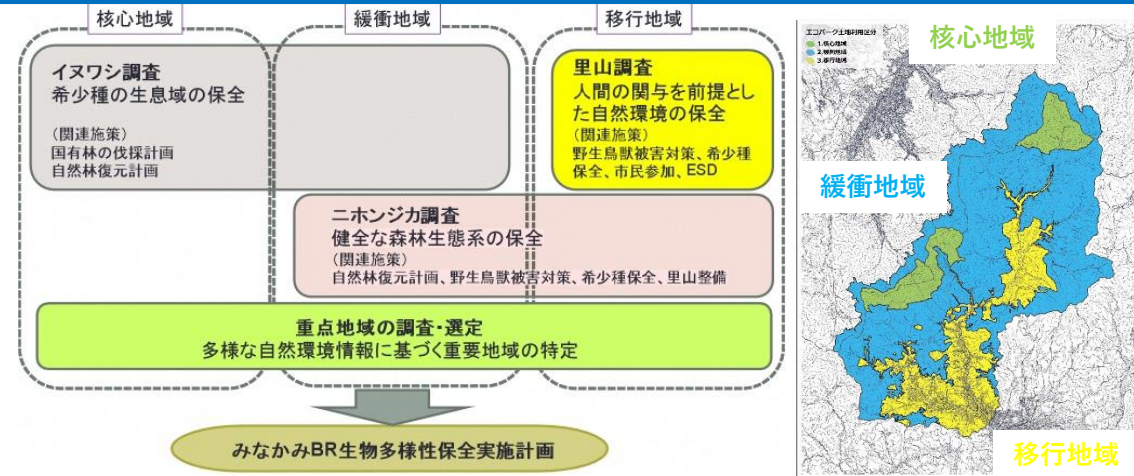
事業の内容

【1年目 調査体制構築】

- ・イヌワシ調査（調査体制の構築及び調査開始）、ニホンジカ調査（センサーカメラ設置）、里山調査（センサーカメラ設置）、重点地域調査（関係者会議開催、ヒアリング）

【2年目調査の実施】

- ・イヌワシ調査（分布調査）、ニホンジカ調査（分布確認および捕獲試験）、里山調査（データ回収及び解析）、重点地域調査（分権調査、データ収集）



期待される成果

赤谷プロジェクトエリアや谷川岳エコツーリズムエリアだけで行われていた生物多様性保全に関する監視体制がみなかみBR全域に拡張される。イヌワシの分布状況確認エリアの拡大、ニホンジカ監視体制エリアの拡大、市民協働による里山の生物相把握とセンサーカメラ設置、みなかみBR生物多様性重点地域マップの作成が行われる。また、みなかみBR生物多様性保全推進協議会の機能はみなかみBR科学委員会に発展継承され、みなかみBR生物多様性保全実施計画策定や登録後10年後に提出が求められるみなかみBR定期報告作成に資するものとする。